



令和8年4月1日
園長 石川 典子

令和8年度 港区立青南幼稚園経営計画 —主体性を発揮して みんな笑顔の幼稚園—

1 教育理念（生きる力の基礎を育む幼稚園）

公立幼稚園の使命

- 幼児期にふさわしい生活を通じた質の高い教育を実践する幼稚園
- 地域・保護者ととともに子どもを育てる幼稚園
- 教職員が専門性を高め合い協同（働）する幼稚園

幼稚園は学校教育の始まりです。幼児期の学びは、幼児を取り巻く「人・物・こと」のすべての環境と関わり、直接体験である遊びや生活の中で展開される自発的な活動を通して行われます。一人ひとりの幼児がもつ、生まれながらにして自然に成長していく力と周囲の環境に能動的に働き掛けようとする力を支え、安定した情緒の下で自己を十分に発揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培います。

幼稚園教育要領・学習指導要領では、幼児期から高等学校卒業までの学校教育全体において育成すべき資質・能力の3つの柱が示されています。幼稚園では、それぞれの資質・能力を個別に育てるのではなく、遊びや生活を通して一体的に育てていきます。また、地域の公立幼稚園として、子どもたちが暮らす地域の環境や人との関わりを深め、家庭と協力して教育を進めてまいります。

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることで見られるようになる具体的な姿としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教員と共有し、子どもたちの「育ちと学び」をつなげていきます。港区立幼稚園の教職員として、常に学び、互いに専門性を高め合い、小学校以降の教育と連携し、地域の幼児教育をリードしていきます。

幼児教育において育みたい資質・能力（生きる力の基礎を育む）

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」

気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、工夫したり、表現したりする
「思考力、判断力、表現力等の基礎」

遊びを通して一体的に育む

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
「学びに向かう力、人間性等」

2 青南幼稚園の教育目標 (令和8年度の重点)

よく考えて遊ぶ子

思いやりのある子

心も体も元気な子

青南幼稚園に通う子どもたちを、教育目標に向かい、遊びや生活を通して一体的に育てていきます。今年度は「自分で考え行動する子」を重点とし、子どもたちの主体的な遊びを通して、資質・能力(生きる力の基礎)を豊かに育てていきます。

3 幼稚園経営の方針

- ・全ての幼児を、教職員全員で育てていきます。
- ・幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。
- ・教員同士のカンファレンスを通して幼児の姿から幼児の内面を深く捉え、発達に必要な環境を整えます。
- ・幼児の実態や発達、時期にふさわしい感動体験を積み重ねることができるようになります。
- ・小・中学校、保育園との交流・連携を進め、地域の公立幼稚園として幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めます。

<主体性を発揮する子ども・保護者・教職員像>

主体的に遊びや生活に取り組む子ども

- ① 幼稚園生活を楽しみ、明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう子ども
- ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする子ども
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する子ども
- ④ 身近な人と親しみ、関わりを深め、一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ子ども
- ⑤ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける子ども
- ⑥ 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、生活に取り入れようとする子ども
- ⑦ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする子ども
- ⑧ 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう子ども
- ⑨ 人の言葉や話などをよく聞き、経験したことや考えたことを伝え合う喜びを感じる子ども
- ⑩ 絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる子ども
- ⑪ いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ子ども
- ⑫ 感じたこと考えて事を自分なりに表現して楽しむ子ども
- ⑬ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ子ども

子どもの自己肯定感を主体的に育む保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメントを築き、安心・安全の基地となって子どもを支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長を先生や保護者同士で喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に理解や協力し、園や地域と共に子どもを育む保護者

教育の質の向上を実現するために主体的に努力する教職員

- ① 心身共に健康で、明るく笑顔で、さわやかな教職員
- ② 相手の状況、思いに気付き、考え、行動できる教職員
- ③ 社会人として、教育公務員として責任感、情熱、使命感をもつ教職員
- ④ 幼稚園全体の子どもたちを、教職員全員で育てる意識をもち、協同（働）する教職員
- ⑤ 自ら資質を高め、研究と修養に励み努め、指導の改善・工夫をする教職員
- ⑥ 子ども、保護者に真摯に向き合い信頼される、専門性をもつ教職員
- ⑦ 地域と幼稚園を愛し、保護者や地域と連携・協働する教職員
- ⑧ 柔軟な発想をもち、働き方を見直し、改善や効率化に取り組む教職員

4 経営の重点

中期的目標（2年間を目途に取り組む目標）

- (1) 一人ひとりの基本的人権を尊重し、発達の特性に応じた個別最適な学びを実現させ、教育目標の達成を目指した教育活動を推進し、生きる力の基礎を培う。
- (2) 教職員一人ひとりが、教育目標や経営方針を自分の課題として捉え、組織の中での役割を意識し、相互に協力、学び、成長し合い、総合力を発揮し、園全体の幼児を育てる教職員集団を形成する。
- (3) 青山アカデミーや青南幼稚園・青南小学校学校運営協議会を推進し、青南・青山小学校・青山中学校、地域、保育園と連携を図り、地域との関わりの中で育つ教育環境を構築し、地域とともにある幼稚園を推進する。
- (4) 保育園との交流・連携を進め、同じ地域に暮らす幼児同士の関わりを深めるとともに、地域の幼児教育の質の向上、小・中学校との交流、連携、接続において、リーダー的役割を果たす。
- (5) 働き方改革を推進し、教員が心身共に健康に生き生きと働くことができる職場環境に向け、園長のリーダーシップの下、教職員一丸となって行事や仕事内容の精選・業務改善を行う。

今年度の主な取り組み

- (1) 健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。
 - ① 「基本的な生活習慣の形成」、「清潔に関する指導（感染症予防を含む）」、「早寝、早起き、朝ごはん」、「危険予測や回避能力の育成」など、自立心を育み、健康・安全への意識を高めるために、視聴覚教材等を活用し、より分かりやすく丁寧に指導するとともに、家庭との連携を図ります。
 - ② 健康な心と体を育むため、様々な体を動かし、心と体が動く気持ちよさや楽しさの体験や、基本的な動きの獲得を重視し、発達に即した運動遊びの工夫、戸外遊びの推奨、専門講師を招聘した「ダンス」を行い、生涯を通じた豊かなスポーツライフを作る基礎をつくります。
- (2) 幼児の主体性を重視し、豊かな感性と創造性を育み、思考力の芽生えを培います。
 - ① 遊びに没頭する中で、心動かされる体験を重ね、幼児自らが、気付き・考え・判断し・行動する中で、試行錯誤や振り返りの経験を積み重ねられるようにします。（ICTの活用も含む）
 - ② 長期・中期・短期指導計画作成の際の観点（幼児の発達の過程・興味・関心・行事・季節等）に考慮し、幼児の体験の質が高まる援助や環境構成を考え、主体的・対話的で深い学びを実現し、園生活の充実を図ります。
 - ③ 教師は、幼児一人ひとりの行動と内面への理解を深め、基本的信頼関係を築き、幼児の心の動きに沿って保育を展開していくことを心掛ける。教材を工夫し、物的・空間的環境を構成するなど幼児と共によりよい教育環境を創造し、一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に即した指導を工夫します。
 - ④ 直接体験を通して、してよいことや悪いことがあることに気付き、社会生活に必要な約束や決まりを守ることの必要性を感じられるようにします。
- (3) 教育内容の充実を図ります。
 - ① 異年齢交流を通して、関わりを広げながら互いに育ち合う関係を築き、遊び・文化を継承するとともに、他者と心地よく生活するための道徳心の芽生えや規範意識を培います。
 - ② 学級の幼児数を考慮した経営・保育内容・教材などを研究し、実践後、複数の教師による日常的な評価の実践を通して、カリキュラムマネジメントを実現し、教育の質を向上させます。
 - ③ 担任が同僚性を発揮し、異年齢交流の保育実践を通して、共に学び、指導力を高め合う機会としていきます。
- (4) 教材や行事を工夫し、心動く体験へとつなげ、豊かな学びを保障します。
 - ① 幼児が主体的に場や物、人に関わって遊び出したいくなる環境構成ができるよう、幼児の興味や関心、発達や時季を踏まえた教材研究を十分に行います。
 - ② 絵本や行事、幼児の実体験などから遊びのイメージが広がっていくよう、意図をもち環境を構成したり、一斉活動の内容を工夫したりします。ICT機器を活用し、幼児の好奇心・探究心を新たな興味関心へと広げるなど、主体的・協同的な学びにつなげます。
 - ③ 絵本や物語等に親しみ、言葉に興味・関心をもてるよう、日常的な読み聞かせやパネルシアター等に加え、多様な題材や語りに触れることができるよう、「お話し会」を開催します。
 - ④ 赤十字活動等を通して、社会貢献の意欲や他者を思いやる心を育み、自尊感情を高めます。

- ⑤ 身近な自然を生かした環境をとおして行う教育を推進し、発達段階や季節に合わせて、生き物との触れ合い、親子での栽培や植物の収穫、園庭の自然物の活用などの自然体験に継続的に取り組み、自然を愛する気持ちを育み、命あるものを愛おしむ気持ちの芽生えを培います
 - ⑥ 季節の自然や生き物との出会いを、幼児の豊かな体験や学びにつなげるため、野菜や遊びに使える草花の栽培やビオトープの整備などを、意図的・計画的に行います。
 - ⑦ 地域への愛着や社会とのつながりの意識を育むため、様々な場面で多様な人との関わりを通して、人と関わる楽しさ、地域とのつながりを感じる体験となるよう、「未就園児との交流」、「保育園との交流」、「青南小学校・青山中学校との交流」、「駅や交番への訪問」などを実施します。
- (5) 日本の伝統文化や他国の文化に触れ国際理解につながる経験を充実させます。
- ① 学校2020レガシーの「日本人としての自覚と誇り」、「ボランティアマインド」を重点とし、伝統行事や餅つきなど、伝統文化に触れる機会を大切に、日本文化の良さを感じさせていきます。
 - ② 外国人との日常的な関わりを通して異なる文化や言葉に触れ、親しみを感じたり多様性に触れたりする経験を充実させ、『港区国際理解教育プログラム』を活用し国際理解の意識の芽生えを培います。
- (6) 社会に開かれた教育課程を推進します。
- 青山・青南小学校・青山中学校、地域、保育園との連携を図り、幼・保・小中で学びの連続性を重視した教育を推進し、地域の幼児教育の質の向上において、リーダー的役割を果たします。
- ① 学校運営協議会での協議を通して、教職員、地域住民、保護者で教育目標を共有し、地域と共にある幼稚園教育を推進し、地域と協働して子どもたちの豊かな成長を支え、地域との関わりの中で育つ教育環境を構築します。
 - ② 幼保小連携の取り組み、研究保育・研究授業等で、幼稚園・小学校の教員が教育活動を見合う機会を活用し、互いの教育や幼児・児童理解を深めます。
- (7) 研究の推進し指導力の向上を目指すとともに、働き方改革を意識して職務に取り組みます。
- 質の高い幼児教育に向け、研究テーマを「ワクワク ドキドキ やってみよう！～創造力豊かな幼児を育む製作活動の工夫～」とし、指導力の向上を図り、「園内研究」「青山アカデミー研究」「幼保小中連携」を進めます。
- ① 園内研究会に講師を招聘し、研究保育・協議会を実施します。。また、主体性や創造力を育む援助や環境構成についてカンファレンスを行い、実践に生かします。
 - ② 青山アカデミー研究授業・協議会を、青山・青南小学校・青山中学校とともに実施し、教員間の交流、互いの教育についての理解を深めます。
 - ③ 保幼小合同研修会において、研究授業と連絡会を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有し、「港区版 架け橋期のカリキュラム」「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」を手掛かりに、小学校入学への円滑な取り組みについて相互理解を深めます。
 - ④ 「港区教職員の働き方改革実施計画」に則り、業務改善及び計画的な職務の遂行により、ライフワークバランスの実現し、心身共に健康で生き生きと職務に取り組みます。
- (8) 子どもたちの姿や育ち、教育資源を、保護者・地域と共有します。
- 幼児の教育は、幼稚園・家庭・地域で連続的に行われています。家庭・地域の皆様に、幼稚園の取り組

みを理解していただき幼児の姿や育ちを共有することは、幼児の望ましい発達の循環につながります。

- ① 園便り、学級便りで、幼稚園の方針や学級の運営について分かりやすく伝えます。また、ホームページ、X（旧 Twitter）で発信を行い、教育活動の様子を視覚的に伝えます。
- ② ホームページ、緊急配信メール、すぐーる等を活用し、幼稚園からの情報を迅速に伝えます。
- ③ 幼稚園公開、行事の参観は、公開や参観内容などの工夫をし、幼児の姿や育ちの理解につながるようにします。
- ④ 保護者会、個人面談、登降園時、行事後の保護者アンケートなどの機会を活用し、保護者との連絡を密にし、迅速な対応をしていきます。
- ⑤ サポート保育や未就園児の会、園庭開放、心の子育て講座の開催など、保護者や地域の実態に応じて、創意工夫し子育ての支援活動を行います。

(9) 取り組みについて評価を行い、保護者・地域に報告し、よりよい教育の充実に努めます。

今年度の教育課程の実施状況について評価し、改善を図ります。

- ① 幼稚園公開、行事等の実施後に、幼児の取組の様子や成長、保護者の感想などを基に即時に評価を行い、次年度の実施に生かされるようにします。
- ② 学期ごとの評価、行事や交流といった項目ごとの評価を行い、年度末の学校評価につなげます。
- ③ 今年度の取組について、子どもアンケート、保護者アンケート、学校運営委員会委員アンケート、教職員アンケートを実施し、自己評価を行います。それらを基に学校運営協議会に評価いただき、今年度の学校評価として次年度の教育課程に生かします。学校評価は、保護者会、ホームページ等で保護者・地域の方々に報告をします。
- ④ 学期ごとに「ふれあい月間」を設定し、3歳児保護者を対象にスクールカウンセラーとの面談を実施し、いじめに類する事案の点検、園内体制の見直し等、未然防止・早期発見・早期対応につながる取組を推進します。